

一般質問

■七尾ファンクラブについて

どのような方々をターゲットとし、周知していくのか伺う

質

今年度当初予算の七尾ファンクラブ事業について、目的や周知方法、会員募集の方法はどのように考えているか伺う。

また、当初の会員登録者数の目標値をどのように考えているのか伺う。

答

七尾ファンクラブの目的は、市外の方にまず七尾市を知っていただく、そして関心を持っていただく、そしてこの七尾市に来ていただく、その後なる人として色々な事業等に手伝っていただく、そういう段階までいければいいなというふうに考えている。この七尾ファンクラブは、9月1日から運用を開始し、新たな関係人口や交流人口、そして移住・定住の人口の拡大などに大きな可能性のある仕組みであると考える。

このようなことから、会員募集にあたり、ふるさと納税の関係者や市内の観光施設、そして宿泊施設にPRチラシの配布、市のホームページ、公式SNS、広報紙など各方面への周知を図っていく。

七尾ファンクラブへの入会は、スマホアプリLINEで登録し、今年度の会員数は、3,000人を目標にしている。今後は、会員の方々に有益な情報を提供していく中で、会員の方々と結びつきを強めていきたいと考えている。



木下 美也子 議員
(無党派)



七尾ファンクラブ



西川 英伸 議員
(市民クラブ)



一般質問

■要介護認定の進め方とそのデジタルトランスフォーメーション化について
負担軽減のため業務改善をすべき!

質

本市の超高齢化に伴い介護関連の業務も増加し、中でも要介護認定業務の多忙さが挙げられる。負担軽減のためには、要介護認定の審査会システムのオンライン化、調査票作成のデジタル化などが、非常に有効であると考える。他自治体で事務作業が10分の1以下になったとも聞く。ペーパーレス化で膨大な紙の資料がなくなり、消耗品のコストも大幅な経費削減が出来る。本市はどのような部分で業務改善を図るのか伺う。

答

現在、認定有効期間の延長により年間の申請者数はやや減少傾向にあるが、75歳以上の人口が増加傾向にあり、今後申請者の増加が見込まれることから、業務効率化のためのデジタル化が必要になると考えている。例えば、認定調査事務では訪問調査時にタブレット端末を導入すること等、介護認定審査会事務では審査会資料のペーパーレス化等が考えられるが、セキュリティの面からも慎重に検討する必要がある。令和7年度に全国統一のシステムとなる自治体情報システム標準化を見据えて、国の動向を注視しながら職員の負担軽減に向けて検討したい。